

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移
(最近の動向)

令和4年6月22日
四国森林管理局

目 次

I	管内における主な原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材入荷量の推移	8
2	製材用素材在庫量の推移	9
3	製材品価格の推移	10
III	全国の丸太価格の動向	11
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	13
2	全国の住宅着工戸数の推移	14

管内における主な原木市場・共販所の状況

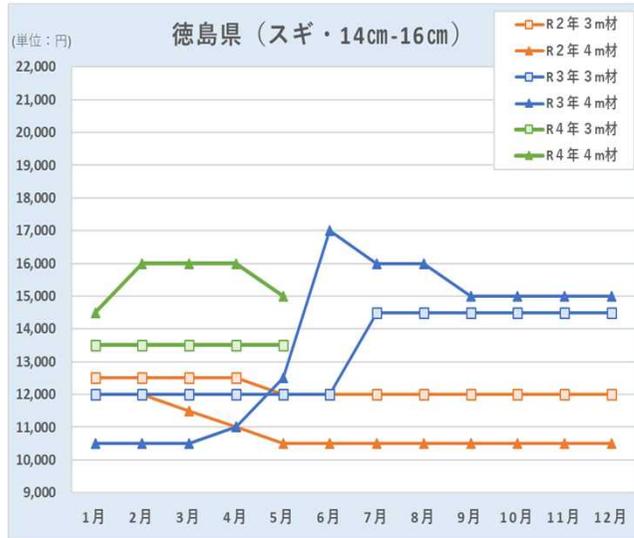
1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和3年春先からの原木需要の高まりによる買い方の旺盛な引き合いも秋口には一端落ち着いたが、3m材を中心に年明け頃から再び引き合いがよくなっており、価格は高い水準が続く。
- 徳島県では、昨年6月頃に価格が大幅に上昇、その後は落ち着きを見せていたが、今年2月に4m材が再び上昇、その後も高い水準。
- 愛媛、高知県では、昨年7~9月頃をピークに秋頃からは一時弱気配もみられたが、3m材については今年2月頃から再び上昇、その後も高い水準。
- 5月のスギ丸太価格は、前年同月比113%から147%で推移。

○ 5月のスギ丸太価格

(円/m3)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	13,500	12,000	113%
	4m材	15,000	12,500	120%
愛媛県	3m材	19,310	13,650	141%
	4m材	14,433	11,803	122%
高知県	3m材	20,833	14,167	147%
	4m材	14,667	12,000	122%



1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目丸太も昨年春先からの旺盛だった引き合いも秋口には弱くなり3m材を中心に弱含んだが、3m材については年明け頃から再び引き合いがよくなり、価格は高い水準が続く。
- 徳島県では昨年6月頃から4m材を中心に価格が大きく上昇し、その後も総じて保合で推移したが、今年2月に入り3m材も上昇、その後も高い水準。
- 愛媛、高知県では、昨年8~9月頃をピークに3m材は弱気配へと移行したが、3m材は今年2月に入り再び上昇に転じ、高い水準が続く。
- 5月のスギ丸太価格は、前年同月比119%から130%で推移。

○5月のスギ丸太価格

(円/m3)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	16,000	13,000	123%
	4m材	17,700	14,700	120%
愛媛県	3m材	18,837	14,500	130%
	4m材	16,903	13,730	123%
高知県	3m材	17,500	14,167	124%
	4m材	17,000	14,333	119%



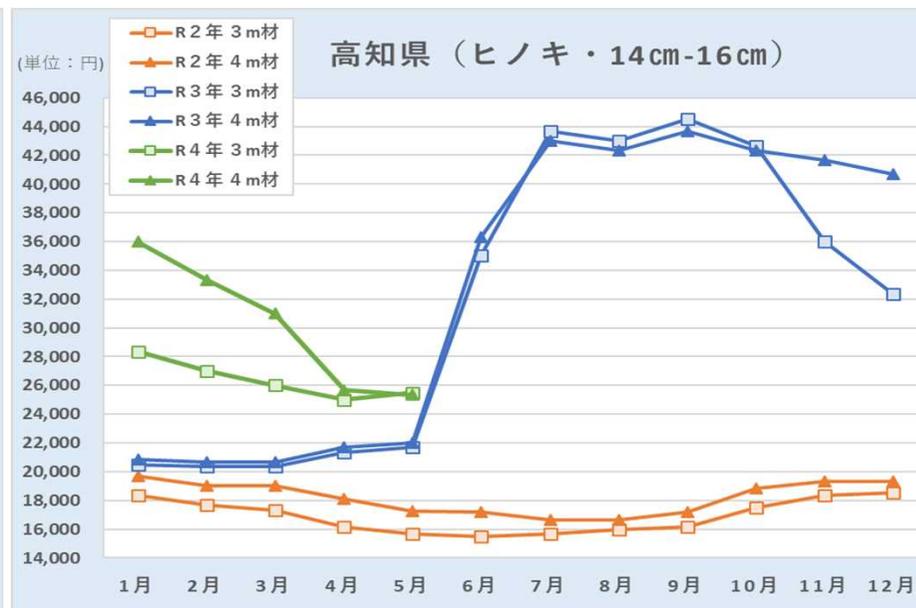
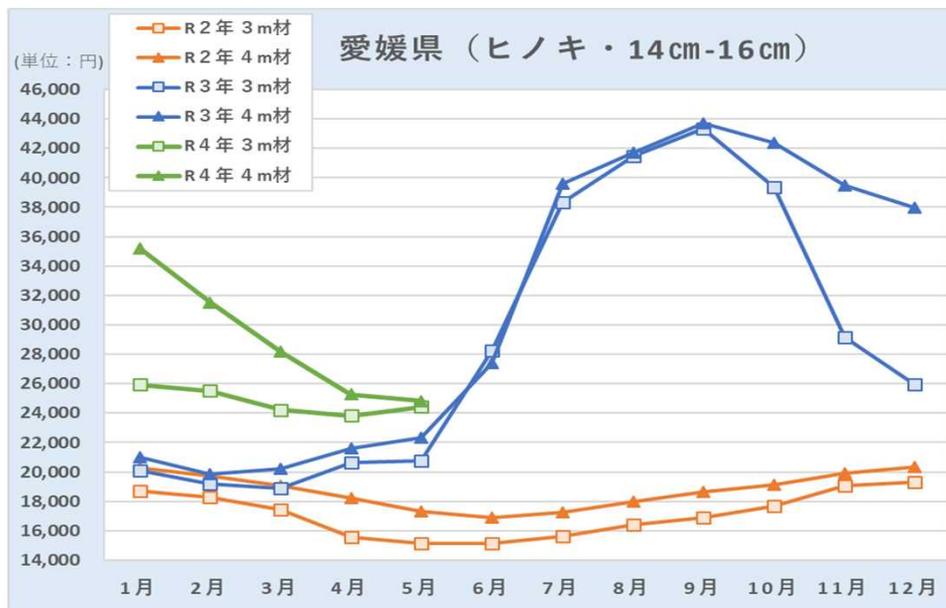
1-(3)丸太価格の推移（ヒノキ、径14cm～16cm 長3m材・4m材）

- ヒノキは構造用丸太を中心に昨年4月頃から買い方の旺盛な引き合いがあり、特に6～9月にかけては価格が高騰したが、9月頃をピークに引き合いが弱くなり特に3m材の下落が顕著となった。年明け後は3m材は落ち着きつつあるが4m材の下落は続いており、3m材と4m材の価格差はなくなってきた。
- 愛媛、高知県ともに同様の動きをしており、最近では下げ止まり感もみられる。
- 5月のヒノキ丸太価格は、対前年比111%から118%で推移。

○ 5月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	24,427	20,750	118%
	4m材	24,833	22,300	111%
高知県	3m材	25,500	21,667	118%
	4m材	25,333	22,000	115%



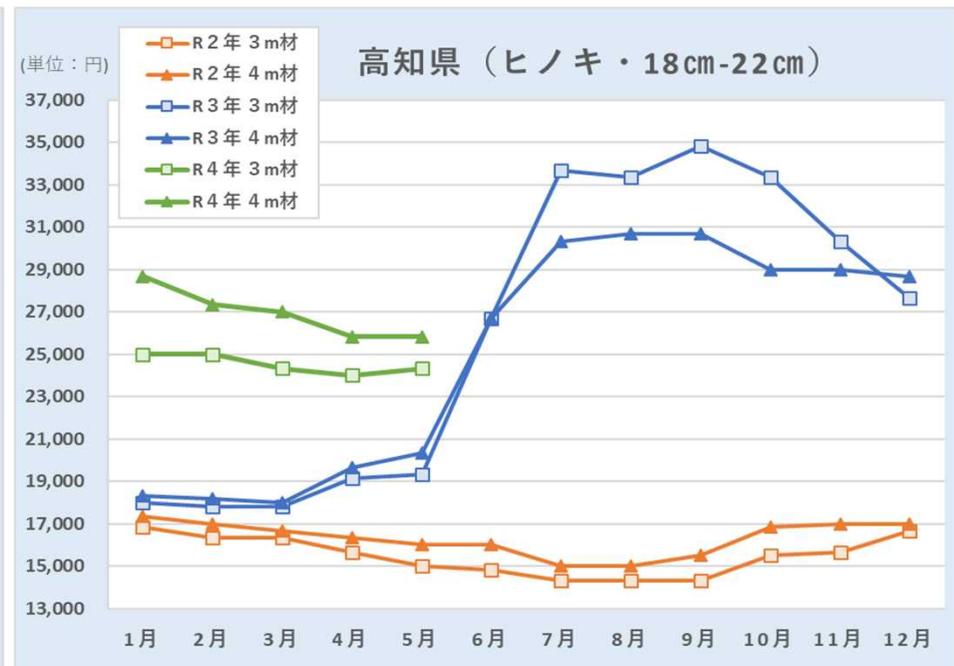
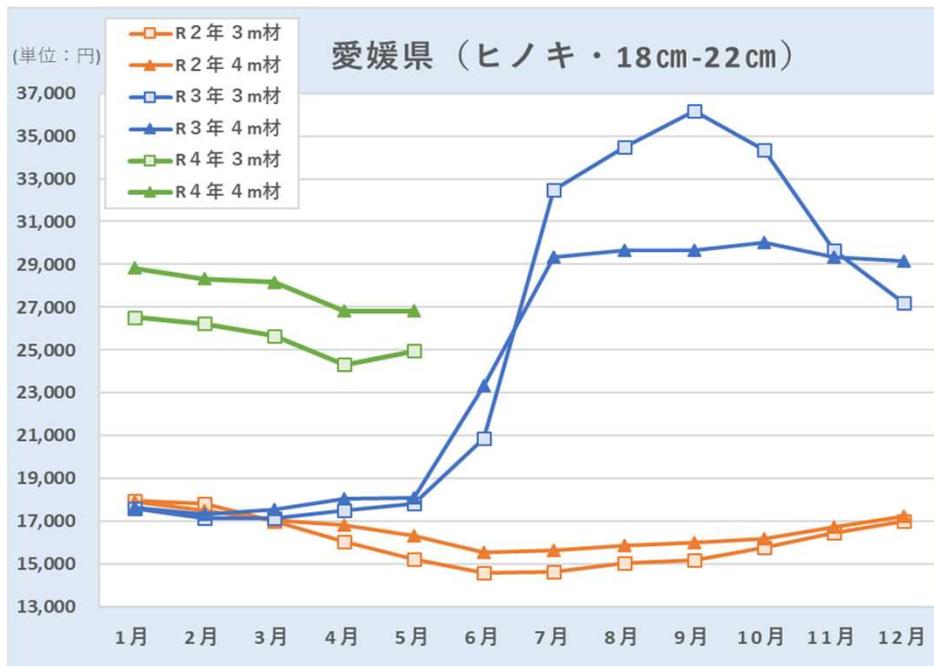
1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目材も柱適寸丸太と同じく、昨年4月頃からの旺盛な引き合いにより、特に6~9月にかけて価格が高騰したが、9月頃をピークに引き合いが弱くなり、特に3m材の下落が顕著となった。年明け後も下落幅は緩やかになっているものの、じり安傾向か。
- 愛媛、高知県ともに同様の動きをしており、最近では下げ止まり感がみられる。
- 5月のヒノキ丸太価格は、対前年比126%から148%で推移。

○ 5月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

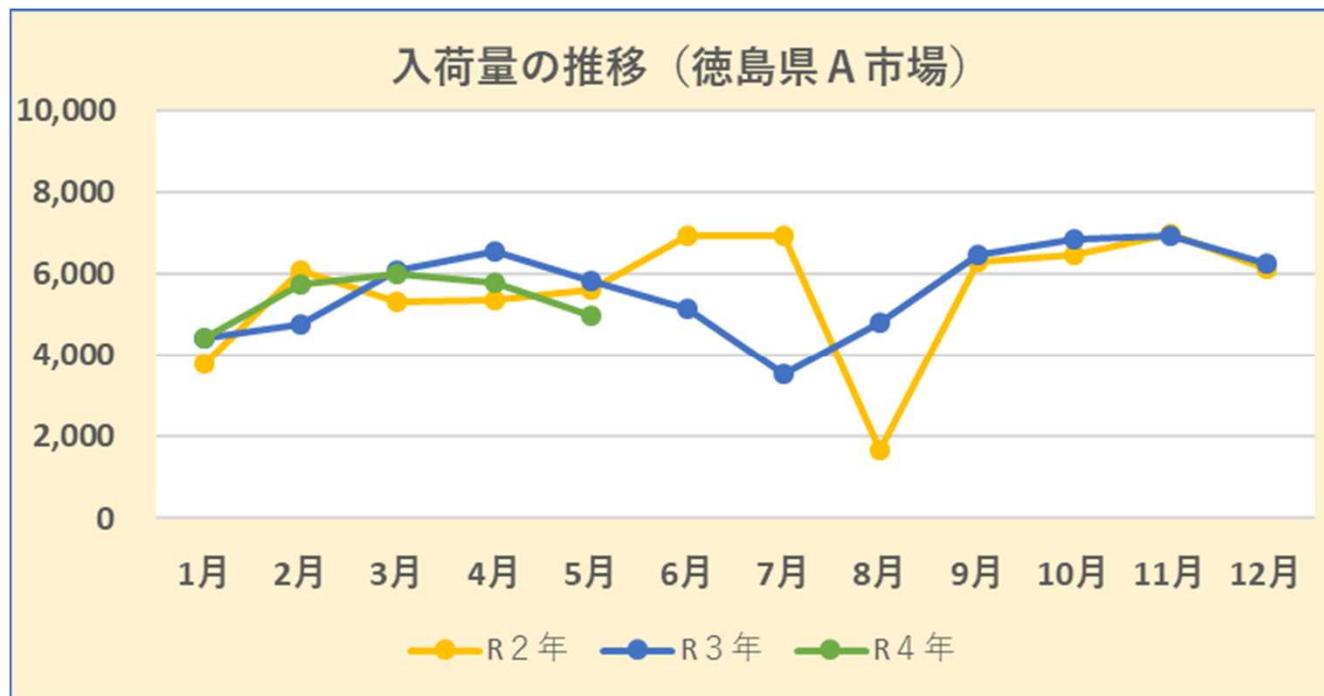
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	24,950	17,833	140%
	4m材	26,833	18,100	148%
高知県	3m材	24,333	19,333	126%
	4m材	25,833	20,333	127%



管内における主な原木市場・共販所の状況

2-(1) 丸太取扱量の推移（徳島県）

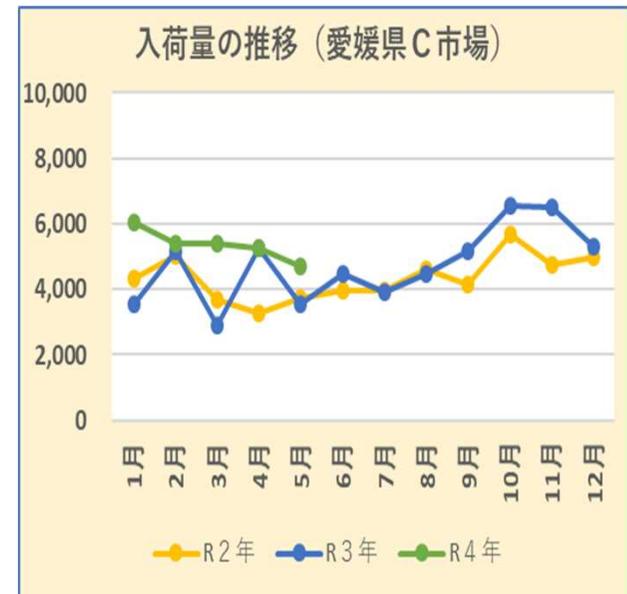
- 入荷は好調。入荷量に作業が追いつかず在庫は多め。
- 6月より県有林の入荷で、益々入荷の増加が予想される。



四国森林管理局調べ

2-(2) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

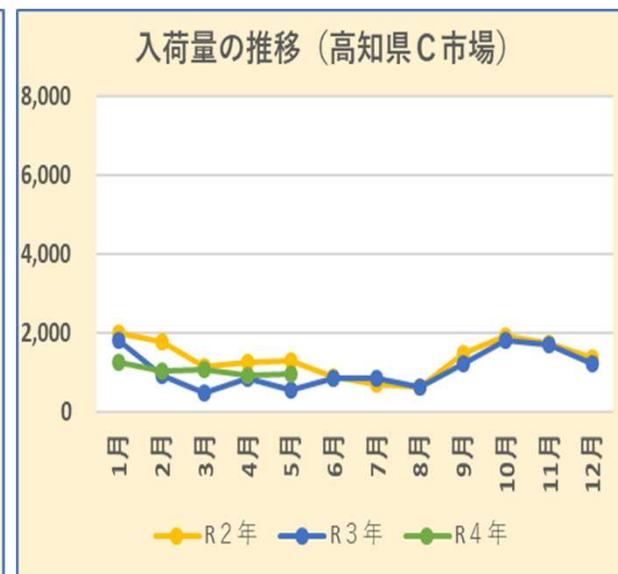
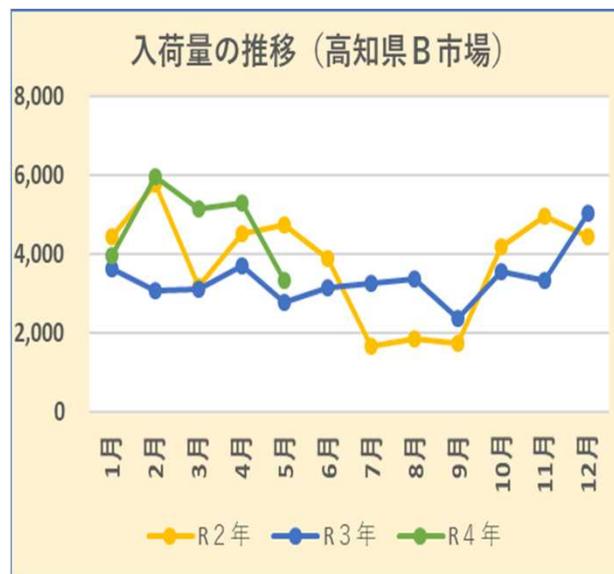
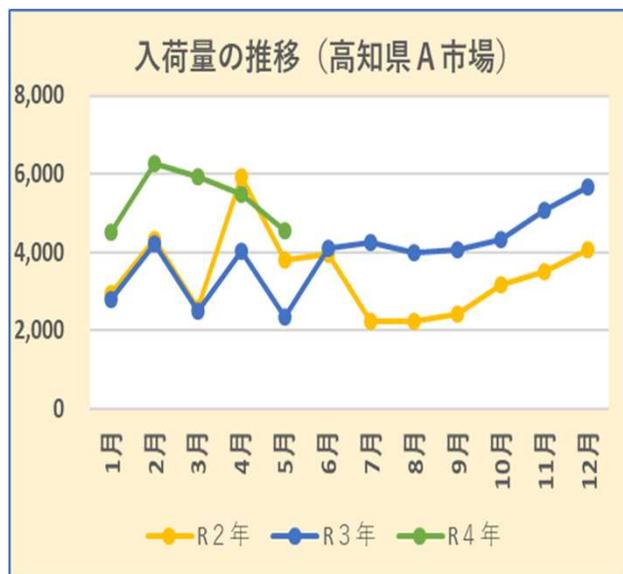
- 天候にも恵まれ出材は順調、入荷は例年に比べ増加傾向。素材生産者の出材意欲も旺盛。
- 梅雨入り後は、天候次第で一時的に減少するのでは。
- 引き取り状況は、ヒノキ4m材の荷動きが悪くなっており未引取材が発生。スギは概ね良好。
- ヒノキは、4m材は供給過多、3m材を増やすよう要請がある。
- スギは、3m材を中心に買い意欲旺盛。



四国森林管理局調べ

2-(3) 丸太取扱量の推移（高知県）

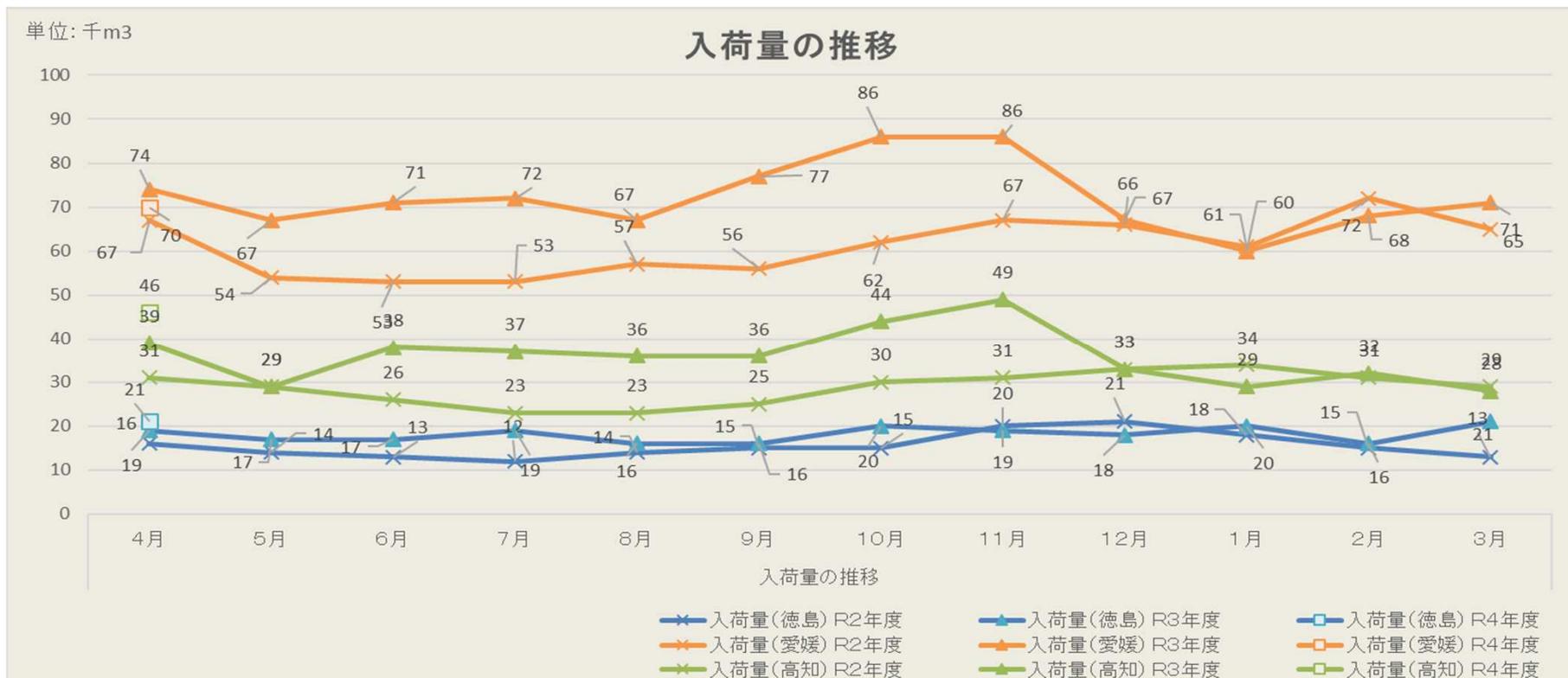
- 出材ピークは過ぎたように思うが、昨年同時期と比べると出材量は多い。
- 特にヒノキは値下がり傾向にあるものの高値のため、出荷が多い。
- 今後、梅雨時期等に入ることから夏場にかけて若干減少するのでは。



II 管内における製材等の状況

1. 県別の製材用素材入荷量の推移（令和2年度～令和4年度）

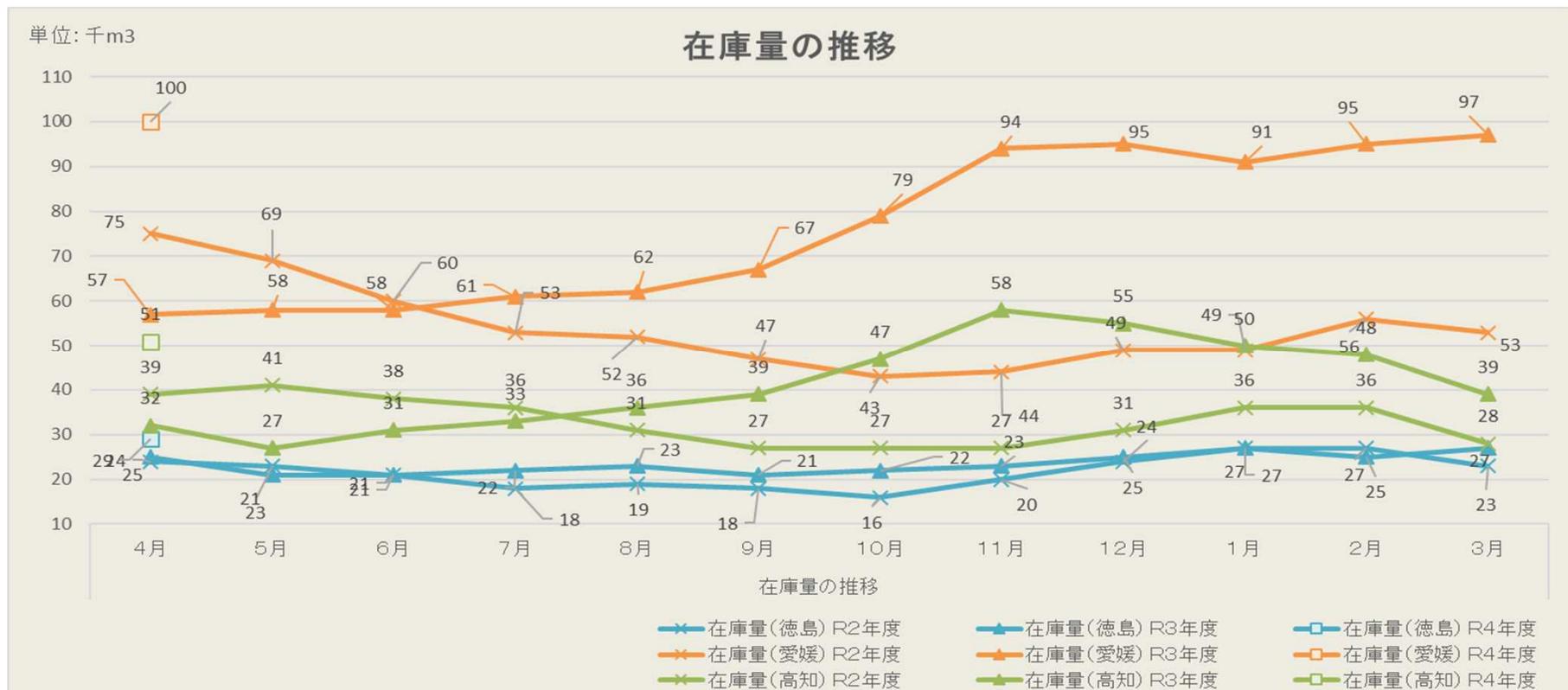
- ▶ 令和3年度は、製材品の好調な動きによる素材の引き合いを背景に、入荷量は11月頃までは好調に推移。特に愛媛、高知県では大幅に増加。
- ▶ その後、製材各社の原木在庫も潤沢に確保され、12月から4月は各県ともに概ね例年並み。



資料: 農林水産省「製材統計」

2. 県別の製材用素材在庫量の推移（令和2年度～令和4年度）

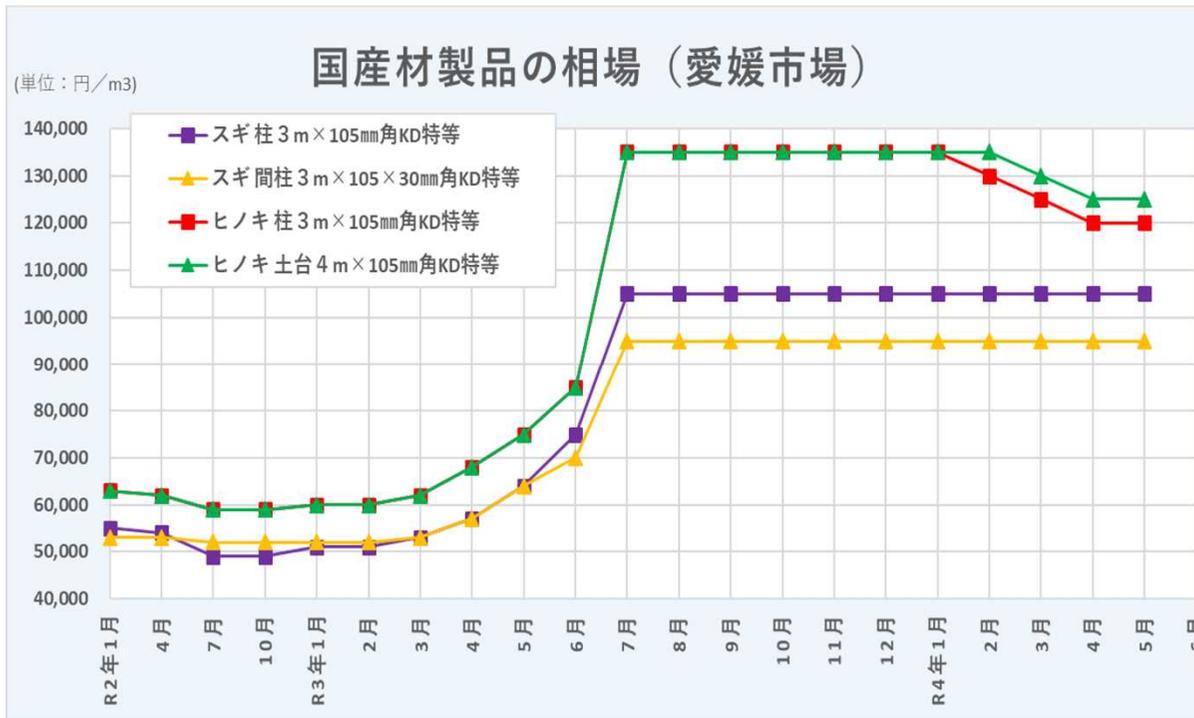
- 令和3年度は、製材各社の好調な生産活動の中、積極的な丸太の仕入れにから、在庫量は6月頃から増加に転じ、9月頃からは例年を上回る傾向となったが、11月から4月は概ね横這いからやや減少傾向。
- 愛媛県では、最近でも高い水準を維持。



資料: 農林水産省「製材統計」

3. 製材品価格の推移

- 令和3年は国産材への代替需要の高まりから、スギ・ヒノキともに構造材を中心とする品目で徐々に値を上げ、7月からは高値を維持。
- 最近の西日本の傾向として、スギ製品は構造材、羽柄材を問わず不足感から安定した引き合いがあるため堅調な荷動き。価格は横ばい。ヒノキ製品は柱、土台角ともに引き合いが弱く様子見姿勢。価格も弱含み。
- 愛媛市場においても同様の傾向がみられ、ヒノキ製品価格は、柱・土台ともにやや下落。



国産材製品の相場（愛媛県）

単位：円/m³

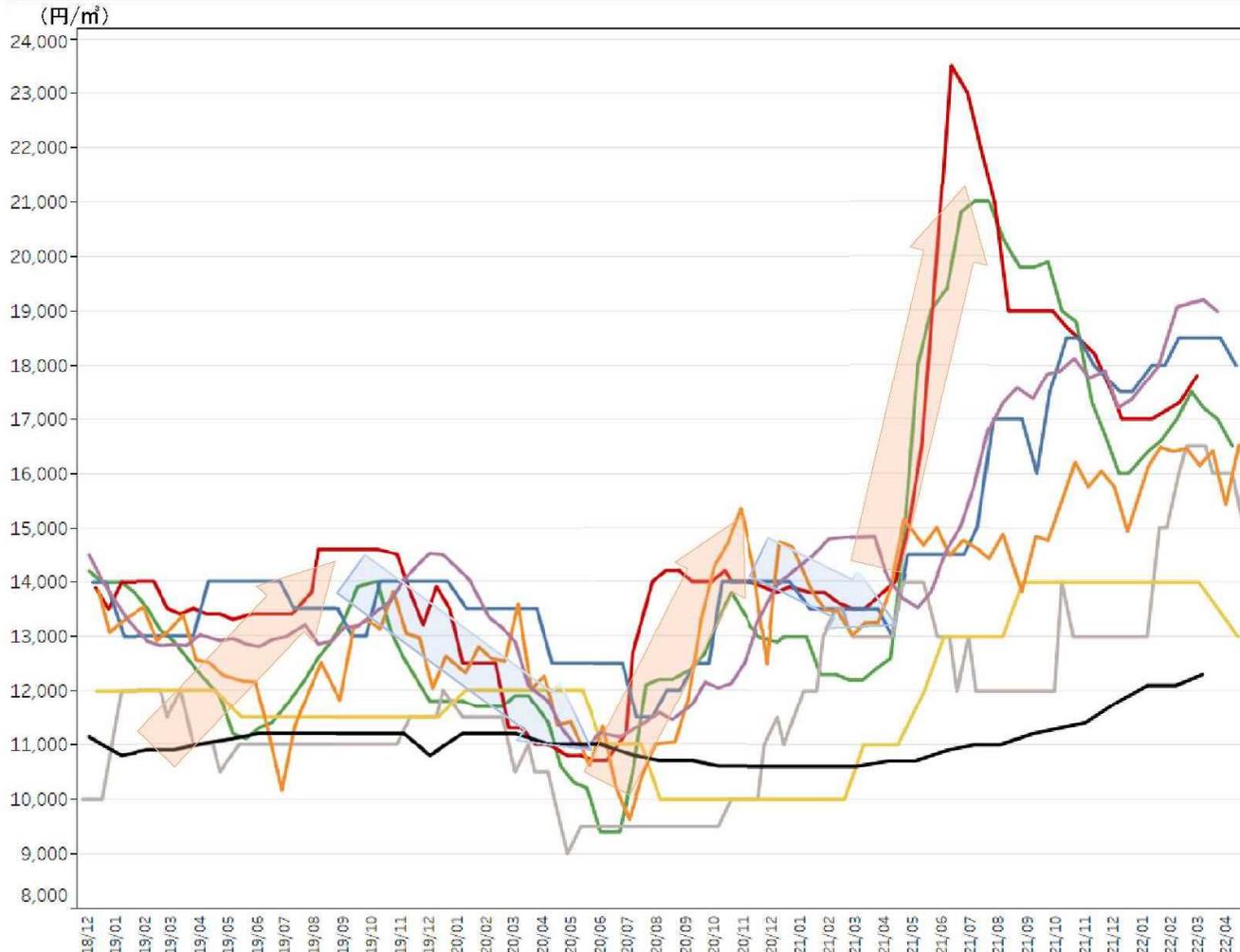
	品目	当月	前年 同月	前年 同月比
スギ	柱 3m×105mm角KD特等	105,000	64,000	164%
スギ	柱 3m×120mm角KD特等	95,000	63,000	151%
スギ	間柱 3m×105×30mm角KD特等	95,000	64,000	148%
ヒノキ	柱 3m×105mm角KD特等	120,000	75,000	160%
ヒノキ	柱 3m×120mm角KD特等	115,000	74,000	155%
ヒノキ	土台 4m×105mm角KD特等	125,000	75,000	167%
ヒノキ	土台 4m×120mm角KD特等	120,000	74,000	162%

資料：日刊木材新聞

Ⅲ 全国の丸太価格の動向

ア スギ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- 例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が上昇。その後も高い水準で推移。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比107%から139%となっている。



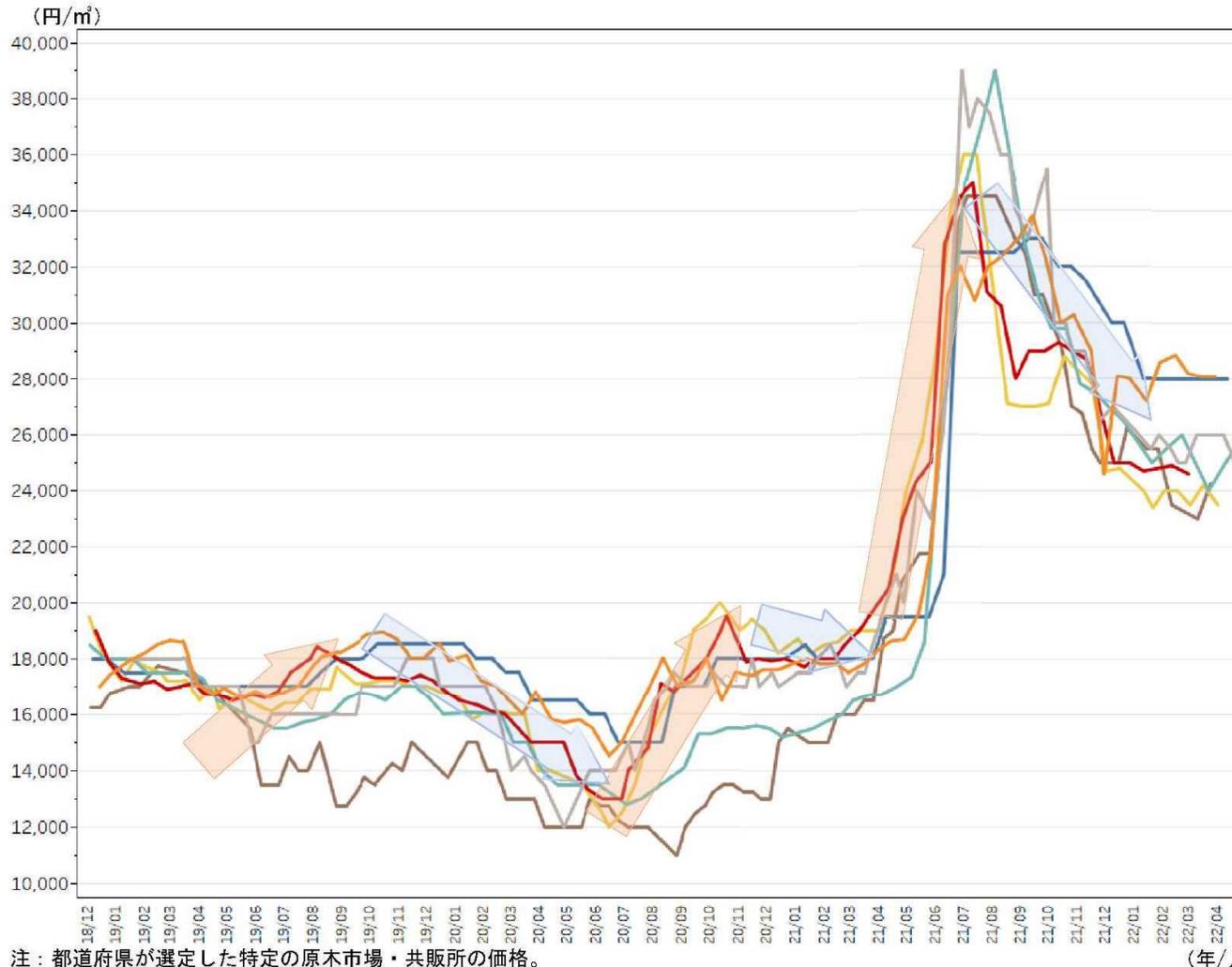
都道府県	2022年直近※	前年同期	前年同期比
■ 北海道	12,300	10,600	116%
■ 秋田県	18,990	14,830	128%
■ 栃木県	16,510	13,900	119%
■ 長野県	13,000	11,000	118%
■ 岡山県	15,000	14,000	107%
■ 高知県	18,000	13,000	139%
■ 熊本県	17,800	13,500	132%
■ 宮崎県	16,500	12,600	131%

※熊本県については2月、北海道及び秋田県については3月、栃木県、長野県、岡山県、高知県及び宮崎県については4月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
 注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
 資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が大きく上昇。その後も、高い水準で推移。
- ・ 直近のヒノキ原木価格は、前年同期比119%から161%となっている。



都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
兵庫県	24,250	16,500	147%
岡山県	25,000	21,000	119%
広島県	25,600	17,000	151%
愛媛県	28,100	17,500	161%
高知県	28,000	19,500	144%
熊本県	24,600	18,600	132%
大分県	23,500	19,000	124%

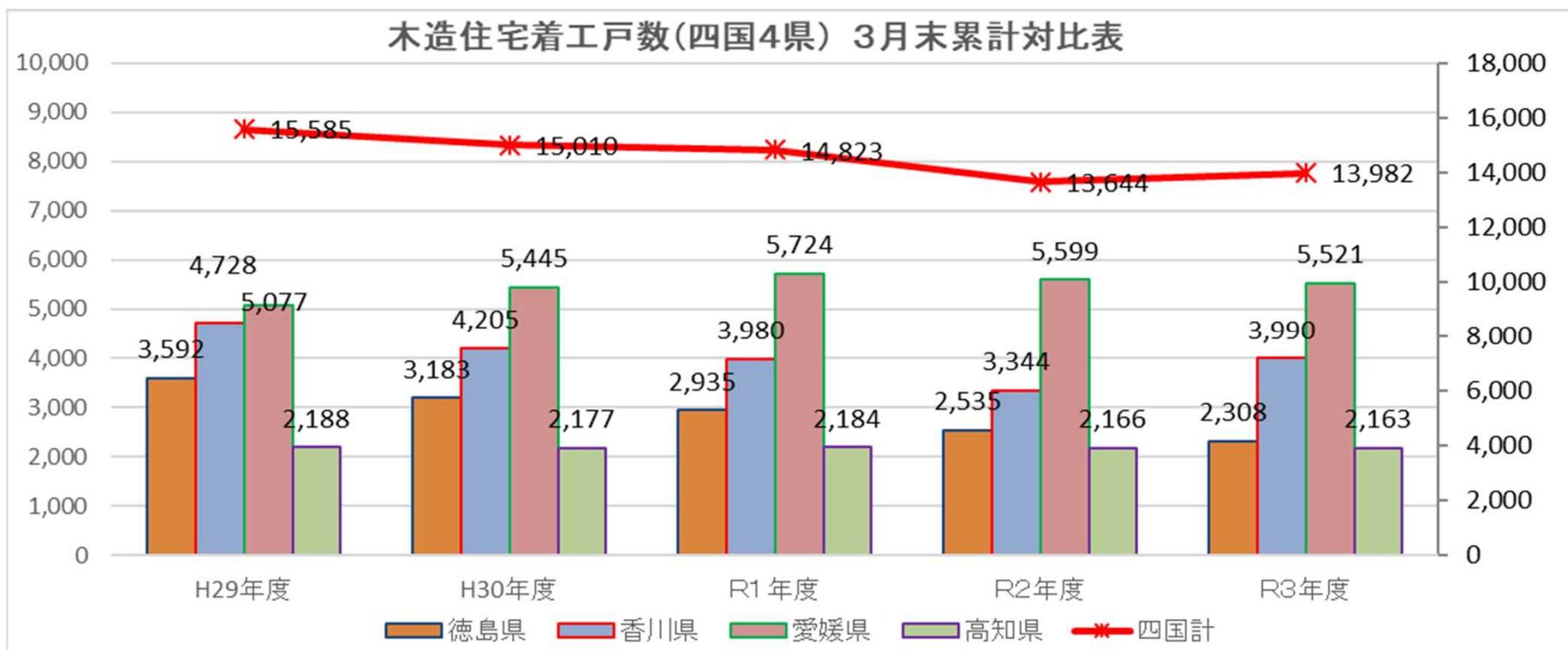
※熊本県については2月、兵庫県及び愛媛県については3月、岡山県、広島県、高知県及び大分県については4月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

IV 住宅着工戸数

1 四国における木造住宅着工戸数の推移

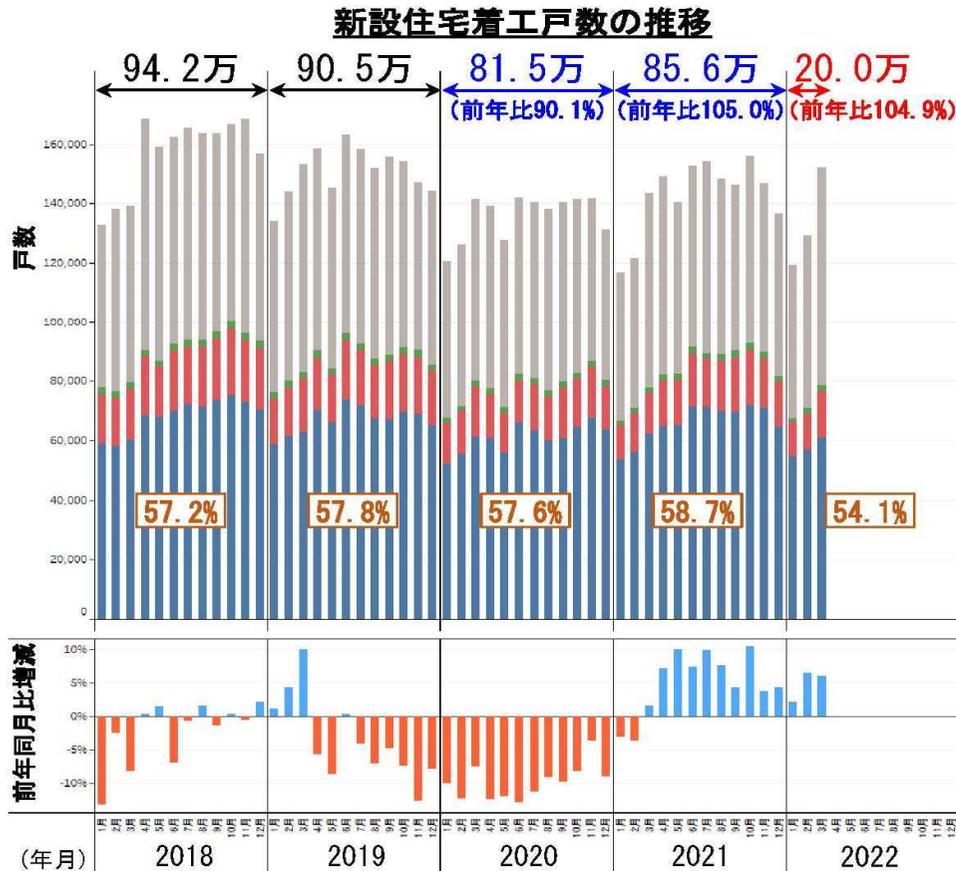
- ▶ 四国における木造住宅着工戸数の令和3年度3月末累計は13,982戸、前年同月末累計13,644戸に比べ2%増加。
- ▶ 過去4年間で比較すると、徳島県で減少傾向が続く一方、香川県は減少傾向から若干回復、愛媛、高知県は概ね横這いで推移。



資料:国土交通省「住宅着工統計」

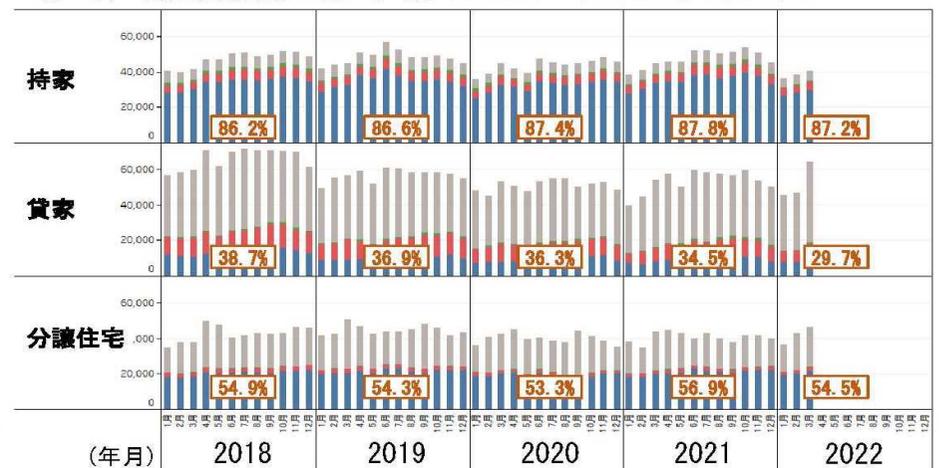
2 全国の住宅着工戸数の推移 (2018年1月～2022年3月)

- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～3月の新設住宅着工戸数は、20.0万戸（前年同期比104.9%）、このうち木造住宅は10.8万戸（同100.5%）。



構造別の着工戸数	2022年 1～3月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	200,424	190,999	104.9%	194,175	103.2%
■非木造	92,078	83,143	110.7%	84,363	109.1%
■木造	108,346	107,856	100.5%	109,812	98.7%
■木造プレハブ	2,043	2,169	94.2%	2,425	84.2%
■2×4	19,969	19,537	102.2%	22,966	87.0%
■在来軸組	86,334	86,150	100.2%	84,421	102.3%
□木造率	54.1%	56.5%		56.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

分析結果

(ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

調査月 令和4年1月～令和4年4月

- 【スギ中丸太】 ・ 3月は逸脱上限値を上回ったが、4月には定常範囲に戻った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなかった。

(イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続

調査月 令和4年1月～令和4年4月

- 【スギ中丸太】 ・ 5ヶ月未満である。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 3月までは下落が続いたが、4月は上昇に転じた。

(ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

調査月 令和4年1月～令和4年4月

- 【スギ中丸太】 ・ 3月は逸脱上限値を上回ったが、4月には定常範囲に戻った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 1月は逸脱上限値を上回ったが、2月以降は定常範囲に戻った。

(エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

調査月 令和4年1月～令和4年4月

- 【スギ中丸太】 ・ 3月は逸脱上限値を上回ったが、4月には定常範囲に戻った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなかった。

(オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

調査月 令和4年1月～令和4年4月

- 【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなかった。
- 【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなかった。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

〔判断基準・指標〕

- 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認
- 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

○ 丸太価格、在庫率の変動

1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.92%		逸脱下限値 -5.74%						逸脱上限値 22.18%		逸脱下限値 -20.05%		逸脱上限値 17.71%		逸脱下限値 -16.57%	
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)			
	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-2.17%	5.07%	<u>6.17%</u>	0.34%	-5	1	2	3	9.02%	15.07%	<u>23.50%</u>	20.25%	8.76%	13.77%	<u>18.19%</u>	15.97%

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 9.11%		逸脱下限値 -9.10%						逸脱上限値 39.17%		逸脱下限値 -38.02%		逸脱上限値 30.41%		逸脱下限値 -31.50%	
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)			
	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-0.97%	-3.54%	-2.95%	0.26%	-5	-6	-7	1	<u>42.31%</u>	31.66%	25.96%	21.09%	22.50%	15.79%	8.06%	4.08%

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	1月	2月	3月	4月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.37	1.39	1.44	1.52
製材用素材(愛媛・高知)	1.36	1.38	1.31	1.48

逸脱上限値	逸脱下限値
1.89	0.80
1.58	0.88

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。